

シンポジウム1

「医療現場での補完医療の現状」

1. アトピー性皮膚炎に対するアロマセラピー

田水 智子 (池田回生病院皮膚科)

【目的】

アトピー性皮膚炎の患者の皮膚の表面はバリア機能が低下しているため、細菌が増殖しやすい状態となっており、特に黄色ブドウ球菌の増殖は皮膚の状態を悪化させると考えられている。その為、皮膚科領域では、黄色ブドウ球菌を減少させ、皮膚症状を改善させるためにイソジン液や超酸化水などによる消毒療法が行われている。しかし、イソジンや超酸化水は、皮膚に対して刺激があることがあるのでその為の皮膚のトラブルや皮膚の乾燥がおこりがちである。

我々はアロマセラピーでアトピー性皮膚炎の患者を治療する場合、殺菌作用の強いティーツリーを中心に使う。ティーツリーは細菌やウイルス、真菌にも有効で抗アレルギー効果もあると言われており、高濃度で皮膚の創部の殺菌に使われたり、内服されたりと安全性が証明されており希釈して使用するならば刺激の少ない精油と考え使用している。

【材料と方法】

ティートリウムその他、症状に応じて鎮静作用のあるラベンダーや抗アレルギー作用の強いローマンカモミール、抗炎症作用のあるブラックスプルスなどを使用する。掻破痕が多く皮膚が浸潤傾向にある場合は、ティーツリーとラベンダーをワセリンやキャリアオイルに混ぜ、患者に1日数回塗布させる。痒み強い場合は、さらにローマンカモミール、ジャーマンカモミールを追加する。また、発赤、腫脹など、炎症の強い症例には、ブラックスプルスやヨーロッパアカマツを混合することがある。

【結果と考察】

個人差はあるが、効果は割に高く、2~3週で痒みは減少し症状は改善した。皮膚疾患の治療におけるアロマセラピーは補助療法の1つであるが、アトピー性皮膚炎の様な広範囲への外用が中心となる疾患には有効かつ適した治療法であると考えられる。